

船舶事故調査報告書

平成26年6月26日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成26年3月12日 05時45分ごろ以降の底引き網漁の開始後～14時42分ごろの間）
発生場所	不明（大分県国東市大分空港の南方沖～南東方沖の間）
事故調査の経過	<p>平成26年3月14日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。</p> <p>原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。</p>
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 ^{けいほう} 慶宝丸、4.9トン OT3-8948（漁船登録番号）、個人所有 11.48m(Lr)×3.08m×0.98m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数15、平成2年12月20日
乗組員等に関する情報	船長 男性 57歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年7月9日 免許証交付日 平成23年4月27日 （平成28年12月18日まで有効）
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、平成26年3月12日05時45分ごろ、大分県杵築市美濃崎漁港の定係地を大分空港南方沖における底引き網漁のために出港した。</p> <p>他漁協所属漁船は、14時42分ごろ、杵築市所在の臼石鼻灯台から真方位068° 4.5海里付近の大分空港南東方沖において、本船が、船尾から後方に網を約20mから30m残して巻き込みを停止し、約2ノットの対地速力で北西進しており、本船上に人がいないように見えたので、海上保安庁に無人船情報を通報した。</p> <p>本船を発見した漁船は、老夫婦が乗っているだけだったので、本船に乗り移って停船させることができず、巡視船及び僚船が駆けつけるまで本船と伴走した。</p> <p>僚船及び巡視船は本船に接近し、乗組員及び海上保安官が乗り込み、本船を停船させ、巻き上げローラーのスイッチを切り、船上を調</p>

	<p>査したところ、同ローラーに巻き込まれた船長を認めたので、網を切断して船長を救出し、船長は、僚船により、最寄りの港に運ばれ、救急車で病院に搬送されたが、死亡が確認された。</p> <p>搬送先病院で大分海上保安部による検死が行われ、死因は胸部圧迫による窒息死と検案された。</p> <p>(付図1 本船発見場所 参照)</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 東北東ないし東、風力 3、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 不明</p>
その他の事項	<p>本船の主機は、発見時、微速力前進となっていた。</p> <p>船長は、発見時、ゴム合羽の上下を着用し、長靴を履いていた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>船長の死因は、胸部圧迫による窒息死であった。</p> <p>本船は、05時45分ごろ美濃崎漁港を出港し、大分空港南方沖の漁場で底引き網漁を開始した後、14時42分ごろ、大分空港南東方沖において、他の漁船に無人と思われる状況で北西進しているところを発見され、その後、海上保安官等が巻き上げローラーに巻き込まれた船長を認めたことから、05時45分ごろ以降の底引き網漁の開始後から14時42分ごろ他の漁船に発見された間において、船長が、巻き上げローラーに巻き込まれたことから、死亡するに至ったものと考えられるが、巻き込まれた状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が美濃崎漁港を出港し、大分空港南方沖の漁場で底引き網漁を開始した後、船長が巻き上げローラーに巻き込まれたため、発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻き上げローラー等で作業を行う際は、船体動揺などのローラーに巻き込まれる虞のある安全阻害要因に十分注意すること。

付図1 本船発見場所

